
磁気の魔岩

百（難しい童話）

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

磁気の魔岩

【Nコード】

N4837Y

【作者名】

百（難しい童話）

【あらすじ】

大きな岩鉄。それを磁石に変えようという試み。それは、予想に反して上手くいったのだけど、ところが、その岩鉄は動き始めてしまった… 自サイトよりの転載です。

原子には磁性がある。種類によって差はあるが、物質によっては強力な磁性を示す。だが、それら物質が常に磁性を示すとは限らない。例えば鉄。磁性を示す場合と示さない場合とがある。何故なのだろう？

それはたくさんある原子の方向が揃っていないからだ。様々な原子が様々な方向を向いている為に、互いに磁力を打ち消し合い、結果弱い磁力しか発しなくなる。ならば、方向を揃えてやれば、強い磁力を持つとはならないだろうか？ 実は、なるのである。方法は簡単。熱してやればいい。

熱とは運動エネルギー。原子の暴れる力である。だから、熱すると原子は揺らぎ動くのだ。そこに磁力を加えてやる。磁力は磁力に引かれるというのは知っているだろう。結果、熱を加えられ緩くなった原子は動き易くなっているから、その加えられた磁力の方向に揃う。そして、強い磁力を持つに至るのだ。地磁気でもこれは起る。

さて。

ここに大きな岩鉄がある。ずっと昔から僕の家近所にあるものだ。そして、誰が言い出したかは知らない。この岩鉄を大きな磁石に変えてやろうという事に、いつの間になっちゃってしまっていたのだ。

「どうするのさ？」

「熱すれば良いのだろう？」

ただの思い付きの戯言だと思っていたのに。いや、本当にただの思い付きの戯言だったのかもしれないけど、それでもその話は進んでいってしまったのだ。悪ふざけが悪ふざけを呼び、本気の話に。地磁気じゃ弱いという事になり、なんだか知らないが変な機械をどっから持って来る奴まで出る始末。

何かのバラエティ番組のチャレンジ・コーナーのように思えなくもないが、そんな経緯でその岩鉄を中心にたき火が焚かれたのだった。あれ？もしかしたら、たき火って、今は法律で禁止されていなかったっけ？ と、途中で思ったりもしたけど、気付かない振りをした（お願いだから、やらないでね）。

やがて岩鉄は真っ赤になった。そこに何だか分からない変な機械で磁気を発生させる。ある程度のところで、磁気の方が揃ったのじゃないかと判断した僕は、岩鉄を冷やしてその磁性を確かめたとすると、なんと驚いた事に釘が引き寄せられるじゃないか。予想に反して、この悪ふざけの試みは成功をしまったのだ。しかし、それから事は起こった。

岩鉄を磁石にしたからといって、当然、何も使い道はない。別に持って帰りたいがる奴もいなかったから、そのまま放置される事になった。それで、「良かった、良かった」と祝福しあってその場を離れようとしたその時に、大きな音が聞こえたのだ。

ゴトリ

振り返ると、さっき大きな磁石に変えた岩鉄が、動き始めているじゃないか。なんだこりゃ？

僕らは大慌てで走り出した。何しろ、その岩鉄は僕らに向かって転がってきているのだ。逃げた方が良さそうだ。

「怒ったんじゃないの？」

と、誰かが無責任な事を言う。

「岩が？」

「だってさ」

しばらく走っていると、その内の一人がこんな事を言った。

「仮説を立てよう」

「仮説？」

「そう。あれは、磁性を持った途端に、動き始めた。つまり、キ―は磁性だ。なら、磁力を弱めてやれば動かなくなるかも」

「かなり大雑把な推論だけど、それに賭けてみるしかなさそうだ

な」

悪ふざけなノリそのまま、僕らはその方向で案を練った。問題は、どうやって磁力を弱めるか。

走りながら、僕らは手ごろな大きさの岩を何個か見つけると、それを抱えた。そして転がってきた岩鉄に向けて、皆でそれを一斉に投げつけた。

おいおい、と思うかもしれないが、これは立派な磁性を失わせる手段。岩鉄が磁性を持ったのはその原子の方向が揃ったから。なら、衝撃を与えて原子を動かしてやれば、再び磁性を失うはず。

だけど、それでも駄目だった。たくさん岩の下で、岩鉄はまだ動いていたのだ。這い出てくるのは時間の問題に思えた。

「駄目じゃない？」

一人がそう言うのと、別の誰かが声を上げた。

「いや、これで十分」

どこに用意してあったのか、それからそいつはガソリンをそれにぶっつけた。そして火をつける。くどいようだが、たき火は禁止されているはずだから、やらないように。

燃え盛る火の中、それでも岩鉄は動いていた。ガソリンをぶっつけた一人が、それを見て言う。

「良いか？ 出てきたら、また一斉に岩を浴びせるんだ」

その言葉に従い、僕らはまた岩を抱える。そして岩鉄が転がり出るタイミングで、それを投げつけたのだ。すると、今度は岩鉄は動かなくなった。磁性を失ったのだ。

どうしなのか？ 原理は単純。熱を加えると鉄の原子は動き易くなる。そこに衝撃を加えれば、当然、原子はより激しく動く。それで、原子の方向はバラバラになって、磁性を失ったって訳。

……一応、科学の勉強の為に書いた話のつもりなんですがね。

（後書き）

ファンタジーで、科学の勉強になる話を書く僕。
……良いじゃないか、別に。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4837y/>

磁気の魔岩

2011年11月17日18時55分発行